

【様式1】

学校名	甲州市立勝沼小学校	教科	社会科 外国語科
研究主題	学習者主体の授業づくりを通じた、児童の資質・能力の育成 —「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら—		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①社会科・外国語科の授業実践

- ・学習者主体の授業展開（探究のサイクルを意識した授業展開）
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業

②ICT 端末の利活用

- ・Google Chat(以下、Chat)による情報の共有
- ・Google サイトの活用によるスタディログの積み重ね
- ・Google サイトの学級活動・児童会活動への活用

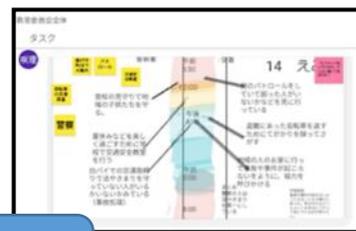
③探究のサイクル及び思考ツールの掲示物作成・掲示



(2) 具体的な研究活動

①社会科・外国語科の授業実践

- ・Google Classroom(以下、Classroom)に授業の流れを提示。学習者のペースで授業を進める。
- ・教科書を読み込み、Google Jamboard(以下、Jamboard)に入力。
- ・友達の考えは常に共有し、一人一人の様子を見取りながら、必要に応じて声をかける。



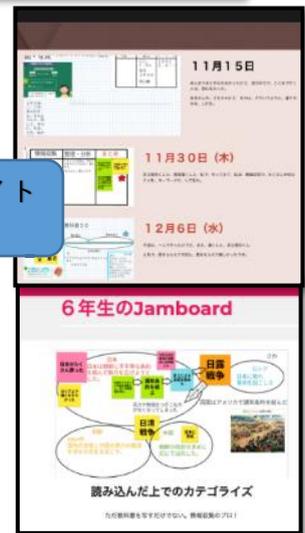
Chat
の活用

②ICT 端末の利活用

(ア) Google サイトの活用

- ・他学年の Jamboard を掲載
- ・各時間の参考になる Jamboard を掲載
- ・Jamboard でまとめた内容を個人のポートフォリオとして掲載
- ・参考になる自主学習の取組や Jamboard のまとめ方の例を掲載
- ・学級活動の内容やお手本となる児童の様子を掲載
 - 前時までの内容や前の単元の内容を見ることができる。
 - 上級生のまとめ方が、他の学年のお手本になっている。
 - 振り返り等を入力することでスタディログとして利用できる。
 - 様々な情報をサイトという1つの場所にまとめることができ、児童も教員もアクセスしやすくなった。

Google サイト
の活用



(イ) Chat の活用

- ・導入段階での質問に対する回答を Chat に入力
- ・終末段階でのまとめの共有として、まとめた内容を Chat で送信
 - 短時間で多くの意見を知ることができる。
 - お互いにまとめた内容をすぐに確認できる。
- △Chat の使い方や、情報モラルに関わる指導が必要となる。

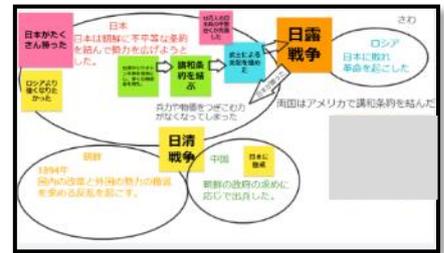


(ウ) 情報モラル教育・タイピングスキルの向上

- ・タイピングスキルアップ（毎週火曜日の朝活動）
- ・「GIGA ワークブックやまなし」を使った情報モラル教育
○タイピングスキルの向上に伴い、表現力も向上できた。

③探究のサイクル及び思考ツールの掲示物作成・掲示

- ・「探究のサイクル」「思考ツール」「教科の見方・考え方」の掲示物をいつでも確認できるように、各教室の黒板や壁面に掲示
- ・「探究のサイクル」を Google サイトにも掲載し、いつでも ICT 端末から確認できるように設定



「探究のサイクル」「教科の見方・考え方」の掲示物

2. 研究の成果と課題 (○成果 ▲課題)

①社会科・外国語科の授業実践

- 児童が1時間の授業で終始、集中して学習に取り組む姿が見られた。また、授業前から「課題に取り組みたい」という児童がいたり、授業後に「もっとまとめたい」という児童がいたりするなど、学習に対する意欲が高まった。
- 教科書を読んだり、教科書の内容をまとめたりする力が身に付いた。児童によっては表現力が大きく高まり、自分なりの表現方法を習得することもできた。
- ▲児童それぞれが一生懸命にまとめたり、表現したりしているが、時間が十分に確保できないことが多い。「情報の収集」場面での効率化を図ることなどを通して、十分な時間の確保につなげていきたい。

②ICT 端末の利活用

- Classroom に授業の課題や流れを提示し、展開することで複線型の学習を行うことができた。個別に取り組んだり、グループで取り組んだり、学習に合わせた「学び方」を児童それぞれが選択することができた。
- ▲まだまだ学年間での取組に差がある。また、低学年でどこまで ICT 端末を活用した授業をしていくのか、6年間の見通しをもつ中で検討していく必要がある。

③探究のサイクルおよび思考ツールの掲示物作成・掲示

- 探究のサイクルを意識した授業展開が定着し、学習者自ら課題に取り組む意識が高まった。また、全校で統一した掲示物を作成することで、どの学級でも同じような授業展開を意識できている。
- ▲『『社会的事象の見方・考え方』を取り入れながら、児童の資質・能力の向上を図る』という部分に近付けていない。改めて問いの重要性に気付くことができたので、単元の学習問題を工夫するなど、今後も研究を続けていきたい。

④その他

- ▲今後の授業研究で単元の導入段階から「学習者主体の授業」を展開することで、単元全体として、学習者が主体となって取り組めるよう、さらに研究を深めていきたい。

1 単元名

『事故や事件からまちを守る』

2 単元の目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査をしたり地図などの資料で調べたりしてまとめ、警察署などの関係諸機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習の問題を追究・解決し、学習したことを基に地域の安全を守るために地域社会の一員として、自分たちができることを考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、警察署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、警察署などの関係機関は地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件などの防止に努めていることを理解している。</p>	<p>① 警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見だし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。</p> <p>② 関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>① 事故や事件から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に、地域の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。</p>

4 指導と評価の計画（全7時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

学習過程【学習問題をつかむ】1・2時 【学習問題を追究する】3・4・5時 【まとめる】6・7時

時間	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	評価規準/評価方法
1	市内の交通事故発生件数の変化、事故発生時間別の死者数に関心をもち、棒グラフの意味を読み取るを通して、予想や学習計画を立てることができるようにする。	○市で発生した交通事故の件数や死者数のグラフを読み取り、分かったことを話し合う。 ●市内の交通事故の件数は減少傾向にあることや、交通事故の発生時間によって死者数に違いがあること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「消防署の学習の追究の過程を振り返り、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【 態一① 】
2 本時	地域では交通事故の他に事件も発生していることに着目し、事故や事件から地域の安全を守るための働きについて学習問題をつくることができるようにする。	○交通事故や事件に対処する警察署の仕事について、予想して学習問題をつくり、警察署の働きを調べる学習の見通しを立てる。 ●事故や事件への対処について話し合って学習問題をつくり、それについて予想して学習計画を考えること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【 思一① 】
けいさつしょや地いきの人々は、どのようにして事故や事件からまちを守っているのだろうか。			
3	事故が起きたときの関係機関の働きを理解できるようにする。	○交通事故を処理する警察署の仕事や、110 番の通報のしくみについて調べる。 ●交通事故の迅速な処理のため 110 番の通報のしくみがあり、110 番センター（通信指令室）を中心として対処していること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「通信指令室の働きを基に必要な情報を集め、読み取り、関係機関は事故の際、緊急時に対処する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【 知一① 】
4	地域の警察署を見学して、警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。	○地域の安全を守るための警察の仕事について調べる。 ●交番や警察署では、地域の安全を守るために、登校の見守りや交通安全教室、パトロールや巡回連絡などを行っていること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「警察署を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、警察の諸活動を理解しているか」を評価する。【 知一① 】
5	地域の安全を守る施設や活動について理解できるようにする。	○交通事故を防ぐための施設とその役割を調べ、施設がその場所に設置された理由を考える。 ●地域には、交通事故を防ぐためのさまざまな施設があること。また、守るべき法律や交通ルールなどのきまりがあること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「安全を守るための施設・設備について、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々は事故や事件を防止する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【 知一① 】
6	事故や事件から安全を守る人々の働きについて、まとめることができるようにする。	○地域の人々による交通事故や事件を防ぐための取組を調べる。 ●「子ども見守り隊」を組織したり、地域安全会議を開いたりするなど、地域の人々は協力して安全を守るための活動をしていること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件などの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。【 知一② 】
7	事故や事件から安全を守る仕事についてまとめることができるようにするとともに、地域の安全を守るために自分たちができようことを考えようとする態度を養う。	○警察署の働きについて、事故や事故に対処したり、防いだりするための活動をもとに考え、まとめる。 ●警察署はさまざまな関係機関と協力しながら、事件や事故に対処したり、その発生を防いだりしていること。	発言や ICT 端末でまとめた内容から「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして警察署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【 思一② 】 発言や ICT 端末でまとめた内容から「これまで学習を基に地域の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。【 態一② 】

5 本時の学習

- (1) 日時・場所 令和5年12月1日(金) 5校時 13:55~14:40 3年教室
- (2) 目 標 事故や事件から地域の安全を守るための働きについて学習問題をつくる。
- (3) 本時の学習過程

【事故や事件からまちを守る】②

めあて：事故や事件から地いきの安全を守るためのはたらきに着目して、学習問題をつくろう

A：今までの学習をふまえて、学習問題をつくる

B：気づいたことや疑問に思ったことから、学習問題をつくる

①課題の設定・学習の計画

- ・写真がどのような場面か、予想をchatにあげる。

②情報収集（Jamborad 1枚目・写真を背景に設定）

- ・写真を見て気づいたこと・疑問に思ったことをJamboradにうちこむ。（個人）

※キーワードのみ！『ふせん』で！

③整理・分析（個人またはグループ）（Jamborad 2枚目）

- ・個人またはグループで気づいたことや疑問に思ったことを整理分析し、学習問題を作っていく。
- ・とちゅうで「ちょいせつタイム」→さらに情報の考えを広げたり深めたりする。
- ・考えた学習問題を3つにしぼる。

社会的事象の見方・考え方が入ると、Good 

④まとめ・表現

- ・まとめが終わったグループ（個人）から、自分たちで作った学習問題をchatにあげ、友達のものを読む。

⑤振り返り

- ・Jamboardのスクリーンショットと振り返りをサイトに入力する。



(4) 学習過程に沿った授業の様子

① 課題の設定

- ・写真（写真はChatで児童に送信）がどのような状況か、予想をchatにあげる。
- ・本時の課題の確認。



導入段階での質問に対する回答をChatに入力。短時間で多くの意見を聞くことができた。

② 情報の収集（7分）

- ・写真を見て気付いたこと・疑問に思ったことをJamboradに打ち込む。（個人）

③ 整理・分析 (25分)

- ・グループまたは個人で気付いたことや疑問に思ったことを整理・分析し、学習問題をつくっていく。
- ・考えを広げるための「ちょいせつタイム」を設け、自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを聞いたりすることで、考えを広げたり、深めたりする。
- ・考えた学習問題を3つに絞る。

※社会的事象の見方・考え方を意識する。

【施設・設備などの配置・・・どこにどのような施設・設備があるか】

【緊急時の備えや対応・・・どのように連携・協力して火災や事故などの発生に備えたり対応したりしているか】

【諸活動と人々の生活を関連付けて、関係機関の働きを考える】

※手が止まってしまう児童には、個別に声をかける。



グループで取り組む児童、個人で取り組む児童など、それぞれが学習方法を自ら選択して、整理・分析を行った。



手が止まってしまう児童には、教師が個別に声をかけ、支援を行った。



ノートにまとめる児童もおり、自分なりの表現方法を選択していた。



Google サイトで作成した「社会科学習サイト」から前の単元のまとめを確認し、本時のまとめに生かす児童もいた。

④ まとめ・表現

- ・まとめが終わったグループ（個人）から、自分たちでつくった学習問題を Chat にあげ、友達のものを読む。



Chat でまとめの共有。1 時間でまとめた内容を送信し、お互いにまとめた内容をすぐに確認できた。

⑤ 振り返り

- ・ Jamboard のスクリーンショットと振り返りを Google サイトにあげる。

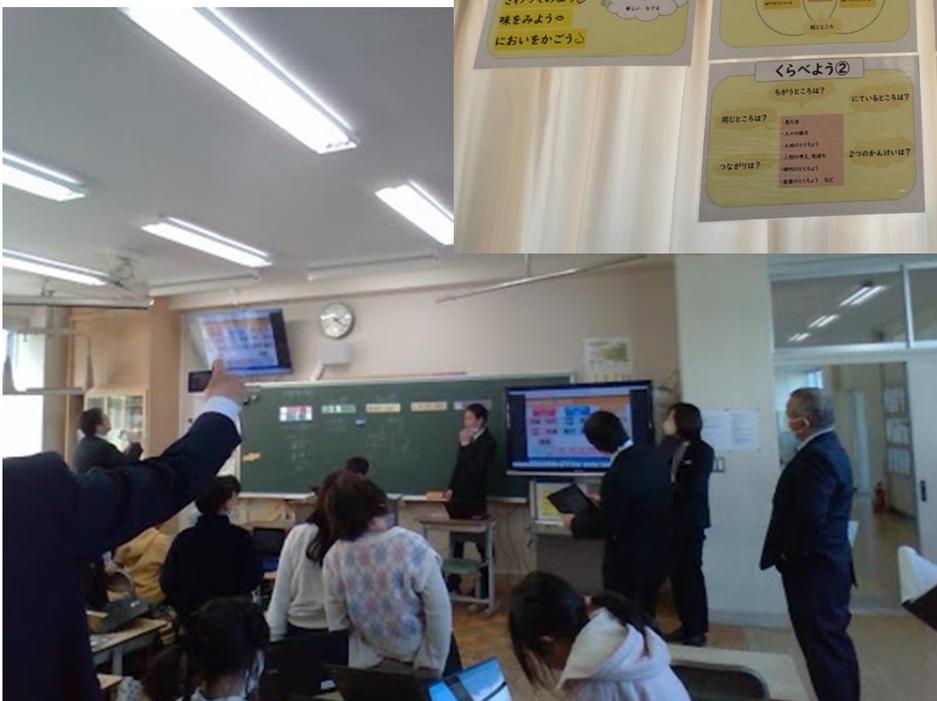
(5) 成果と課題

【成果】

- ・ 教師も児童も「探究のサイクル」を意識しながら、学習をすすめることができていた。
- ・ 「個別最適な学び」をしていくための「自分で考える」ということができている。
- ・ 他者参照できる環境を整えたことで他の児童の Jamboard や、社会科学習サイト(Google サイト)からヒントを得たり、学習をつなげたりして考えた児童がいた。
- ・ 基本的なパソコンの操作スキルや、基礎となる ICT を活用する能力の高さが日頃からの取組の成果であると感じた。(写真を Jamboard の背景に設定する、ふせんの活用、思考ツールの活用等)
- ・ 一人で考えていて、考えが止まってしまう児童に対して、教師が声をかけた。支援によって、自力で学習のまとめまで到達することができた。
- ・ 板書でも、今何をする時間なのか等、確認できる環境が設定されたことで児童が見通しをもって学習に取り組むことが出来た。
- ・ 社会科学習サイト(Google サイト)を確認したり、掲示物を確認したりする中で、今までの学習(消防署などの学習)を生かして、学習問題を考えることができていた。

【課題】

- ・ 「ちょいせつタイム」の目的からずれてしまっている児童もいた。話す場面を設定した場合に3年生としてどの程度の交流を目指していくか、検討の余地がある。今回の授業では、教師からのスタンプの数だけの交流になってしまったグループもあった。「協働的な学び」としての話合い活動において、3年生のレベルをどこに置くか、今後も研究を深めていく必要がある。
- ・ 児童が「社会的な見方・考え方」を働かせるためには、問いが重要であることを改めて感じた。また、学習指導要領の記載事項と「解説」を読んで「〇〇に着目して問いを設けて調べ、〇〇と〇〇を比較・関連・総合・関連付けして考える」ことについて整理する重要性も強く感じた。



第6学年 社会科学習指導案

1 単元名

『近代国家を目指して』

2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、年表などにまとめ、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。</p> <p>②調べたことを年表などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。</p>	<p>①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて考え、表現している。</p> <p>②大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを比較したり関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>	<p>①条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

4 指導と評価の計画(全9時間)

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

学習過程【学習問題をつかむ】 1～2時 【学習問題を追究する】 3～8時 【まとめる】 9時

時間	本時のねらい	○主な学習活動／●学習内容	評価規準／評価方法
1	ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現する。	○ 不平等条約の影響や、政府・国民の考えを調べ、条約改正までの動きに興味をもつ。 政府が西洋化・近代化を進めて条約改正を実現させようとしたことや、ノルマントン号事件をきっかけに、条約改正を求める国内の声が強まったこと。	発言やノートから「ノルマントン号事件の経緯などから、疑問をもち、不平等条約の改正を人々が願っていたことを考え、表現している」かを評価する。 【態-①】
2	条約改正への歩みに着目し、条約改正を達成するま	● 二つの年表の読み取りから、不平等条約について学習問題をつくり、学習計画を立てる。	発言やノートから「不平等条約の改正について問いを見だし、学習問題と

	での出来事について学習問題を作り、学習の見通しを立てる。		して表現している」かを評価する。 【思-①】 ノートから「学習問題について予想や学習計画を立て、主体的に追究しようとしている」かを評価する。【態-①】
3	西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていた願いを捉える。	○ 自由民権運動や西南戦争について調べ、人々がどのような政治を期待していたのかを考える。 ● 明治政府が行った政策に対しては反対の動きもあったこと、広く国民の意見を取り入れた政治を求める運動が起こり、広まったこと。	発言やノートから「国民の意見を政治に取り入れることを求めて、自由民権運動が起こったことを理解している」かを評価する。【知-①】
4	大日本帝国憲法の公布や国会の開設について調べ、明治政府が目指した政治の在り方がどのように実現したのかを捉える。	○ 大日本帝国憲法の条文や大日本帝国憲法下での政治の取組、制定過程から、明治政府が目指した政治の在り方について考える。 ● 大日本帝国憲法が制定され、天皇主権のもとで国民の権利も一定認められるようになったこと、憲法に基づいて議会政治が始まったこと。	発言やノートから「大日本帝国憲法の内容や国会を開いたことから、明治政府が目指した政治の在り方について考え、表現している」かを評価する。 【思-①】
5 本時	日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を捉える。	○ 二つの戦争の様子と結果を調べ、日本と周りの国々との関係がどのように変わったのかを考える。 ● 日清戦争に勝利した日本は大陸への勢力を伸ばす足がかりをつかみ、これを警戒するロシアとの間で日露戦争が起こったこと。	発言やノートから「二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したかを理解している」かを評価する。【知-①】
6	日露戦争の影響や朝鮮併合、条約の改正について調べ、日本と外国との関係の変化を多角的に捉える。	○ 日露戦争の影響や朝鮮併合の経緯を調べ、その意義について多角的に考えるとともに、不平等条約が改正された背景や理由を考える。 ● 日本が大きな犠牲を出しながらも日露戦争に勝利し、さらに朝鮮を併合したこと。日本が国力を向上させていく中で条約改正が達成されたこと。	発言やノートから「日本と外国との関係の変化やその影響を、様々な立場から多角的に捉えている」かを評価する。 【知-②】
7	産業の発展や日本人の国際社会での活躍について調べ、日本の国力が充実したことや国際的な地位が向上したことを捉える。	○ 日本の産業がどのように発展していったのかを調べ、その影響について考える。 ● 産業の発展の一方で公害問題も発生したこと。日本人が国際社会で活躍するようになったこと。	発言やノートから「日本の産業や科学の発展から、国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことについて考え、表現している」かを評価する。 【思-①】
8	暮らしの変化や権利を求める運動について調べ、社会が変化したことを捉える。	○ 女性運動や全国水平社、普通選挙運動について調べ、人々が求めていた社会のあり方について考える。 ● 近代化の進展を背景に、民主的な社会を求める様々な運動が起こったこと。	発言やノートから「暮らしの変化とともに人々が民主主義を求める社会に変化したことを理解している」かを評価する。 【知-①】
9	調べたことをまとめ、政府の政策による社会の変化	○ 学習してきた、条約改正に向けた明治政府の動きをまとめ、どのように条約改正が達成されたか考える。	発言やノートから「これまでの学習を関連付けたり総合したりして、この頃の世

<p>や産業・科学の発展を捉え、条約改正の達成と関連付け、日本の国際的地位が向上したことを考え、表現する。</p>	<p>● 政策による社会の変化等を捉え、条約改正により、日本の国際的地位が向上したこと。</p>	<p>の中の様子を考え、適切に表現している」かを評価する。 【思-②】</p>
---	--	---

5 本時の学習

(1) 日 時 ・ 場 所 令和5年11月8日(水) 5校時 13:20~14:05 6年教室

(2) 目 標 日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化をまとめ、表現する。

(3) 本時の学習過程

p188~p189

課題の詳細(省略可)

①課題の設定(めあて)

日清・日露戦争は、どのようなできごとだったのだろう？

サイト ループリック35

B: 2つの戦争の流れや結果から、キーワードを使い、日本と世界の国々との関係についてまとめることができる。

A: 資料を用い、2つの戦争の流れや結果や、世界の国々との関係の変化をまとめることができる。

S: B、Aをまとめ、友達と交流し、それをふまえて振り返りシートに入力している。

②情報の収集(7分)

- 1、教科書を読んで、キーワードにラインを引く、文章と資料をつなげる など
- 2、ジャムボードに入力し、まとめる。

③整理、分析(一人でもいい、グループでも良い)

(ジャムボードにあげたキーワードをもとに、整理分析し、社会的な見方でまとめができるようにする)

☆情報の収集のポイント、社会的な見方・考え方がわからなくなったら・・・黒板に掲示、サイトのホーム一番下にあります！

④まとめ、表現 つな・ワードを使って！

ゴール:(スライドノート追加+スクショして提出+振り返りシートに入力)

(4) 学習過程に沿った授業の様子

①課題の設定(3分)

- ・教科書P188 学びの手引きをもとに、資料アの風刺画を見て、何を表しているのか、予想を Chat にあげる。
- ・本時の課題の確認。

②情報の収集(7分)

- ・教科書を読み、キーワードや教科書の文章と資料のつながりなどを Jamboard に入力する。



教科書を読み、
Jamboard に入力。



「ちょいせつタイム」
でアウトプットし、学
習を深める。



※社会的事象の見方・考え方を意識する。

【世の中の様子…いつから始まったか、どのような世の中だったか、どのように発展したか】

【人物の働き…どのようなことをしたか、なぜそうしたか、社会等にどのような影響を与えたか】

【代表的な文化遺産…誰がいつ頃何のために作ったか、歴史上どのような意味や価値があるか】

【調べた歴史上の主な事象を関連付けたり総合したりして、世の中の様子や国家・社会の変化、歴史の展開や歴史を学ぶ意味を考える】

③整理・分析(25分)

・自分に合ったまとめ方で、整理・分析していく。

・一人で整理・分析に没頭する児童が多いため、途中で「ちょいせつタイム」をはさみ、自分の考えを友達に説明することで、頭の中をもう一度整理する。

※手が止まってしまう児童には、教師が個別に声をかける。

④まとめ・表現

・まとめが終わった児童から Jamboard のスクリーンショット画像を Chat にあげ、友達のものを読む。

・Jamboard のスクリーンショット画像と本時の振り返りを、振り返りシート(白紙共有された Google スライド、以下、スライド)に入力する。

・振り返りシートに入力したものを、個人のポートフォリオ(スライド)にもコピーし、学びを蓄積する。

条約に関することや戦争について	←の事が起こりどうなった	欧米の動き	日露戦争が起こり...	まとめ
19世紀終わり頃 朝鮮に不平等な条約を結ばせ、勢力を伸ばそうとしていた。 1894年(明治27年) 国内の改革 + 列強の勢力の増進を求める相互 + 中国との対立が深まっていた 求めに応じて軍隊を送ると... 日本は対抗し出兵 → 日露戦争が始まった 各地で清に勝利 + 講和条約を結んだ	日本は戦争に勝利し台湾やヤマトン半島を領土にし、多額の賠償金を手に入れた。 + 朝鮮の独立を認めさせた!! ↓ 日本は朝鮮への勢力を伸ばす足がかりを掴んでいた 日本は多くの利益を得ていた!!	19世紀後半 欧米諸国はアジアで勢力を広げていた。 ロシアは... 日清戦争の結果に警戒を強めていた。 ↓ 満州で勢力を強めるロシアに対して戦うべきという声が高まり... 1904年 日露戦争が起こる	日本は... リュウイシュン(旅順)で戦いに勝利をおさめた。 + 日本海海戦では、東郷平八郎の指揮する艦隊がロシアの艦隊を破った。 ↓ しかしいいことばかりは続かず ロシアが革命を起こす → アメリカで講和条約を結び戦争は幕を閉じた	日本は朝鮮や中国などの勢力に勝つために日清戦争を起こし各地で清に勝利し講和条約を結んだ。日本は戦争に勝ったことで多額の賠償金や領土を手に入れることができた。よって日本は多くの利益を得た。 そのころ欧米はアジアで勢力を広げていた。またロシアは日清戦争の結果知り満州で勢力を上げ警戒を強めていたロシアに対して日本は戦うべきという声が多かったため日露戦争を行い次々に勝利をおさめていたがよいことは続かずロシアが革命を起こし、アメリカで講和条約を結び日露戦争は幕を閉じた。 要約すると →

自分でまとめて、Chat で共有。

(5) 成果と課題

【成果】

- ・毎日どの授業でも ICT を活用していた。ただ、使用するのではなく、目的をもち、活用していたため、教師も児童も ICT のスキルを高め、研究授業に臨むことができた。
- ・教科書を読み、大事だと感じた部分を Jamboard にまとめる学習を繰り返すことで、教科書をしっかりと読む力が付き、児童自身の力でまとめることができるようになった。
- ・社会的事象の見方・考え方を意識させるように、板書や社会科学習サイト (Google サイト) 等をうまく活用できた。
- ・探究のサイクルを意識した授業を展開することで、児童が見通しをもって学習できるようになった。
- ・教師が教室を俯瞰できる学習デザインを行ったことで、一人一人の学習状況を把握しやすくなり、困っている児童に必要な声かけを行うことができた。

【課題】

- ・児童の考えを深めるために「ちょいせつタイム」を設けたが、調べたことのみを伝え合う場となってしまったため、この共有の時間の意義の共通理解を図るなど、改善が必要である。
- ・教科書の内容だけでなく、そこから児童が新たな疑問を発見し、学習を深めていけることができるような工夫を行っていききたい。
- ・児童自らが時間を調整し、本時のまとめまで時間内に終わられる力を付けていききたい。



友達の考えは常にクラウドにて共有し、教師は一人一人の様子を見取りながら、声をかけることができた。また、Jamboard にまとめたり、ノートにまとめたり、児童が学び方を選択する授業を行うことで、主体的に学習に取り組む姿が見られた。

「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～第3学年「事故や事件からまちを守る」の実践を通して～

1 本事例のポイント

- ・児童それぞれのペースに合った学習を展開するために、クラウドを活用した各種情報共有の場を設定した。
- ・児童の多角的な思考が実現できるよう、チャットを活用し、より効率的な情報共有を展開することができた。
- ・自分の見たい時に過去の学びを振り返るために、社会科学習サイト(Google サイト)、スライドを活用したポートフォリオを作成した。

2 本事例の概要

第3学年「事故や事件からまちを守る」の実践（本時は7時間中の第2時「学習問題を作る場面」）

本時の流れ

【事故や事件からまちを守る】②

めあて：事故や事件から地域の安全を守るための働きに着目して、学習問題をつくらう

A：今までの学習をふまえて、学習問題をつくる

B：気づいたことや疑問に思ったことから、学習問題をつくる

①課題の設定・学習の計画

- ・写真がどのような場面か、予想をchatにあげる。

②情報収集

- ・写真を見て気づいたことや疑問に思ったことをJamboardにうちこむ。（個人）

③整理・分析（グループ）

- ・グループまたは個人で気づいたことや疑問に思ったことを整理分析し、学習問題を作っていく。
- ・とちゅうで「ちょいせつタイム」→さらに情報の考えを広げたり深めたりする。
- ・考えた学習問題を3つにしぼる。

社会的事象の見方・考え方が入ると、Good 

④まとめ・表現

- ・まとめが終わったグループ（個人）から、自分たちで作った学習問題をchatにあげ、友達のものを読む。

⑤振り返り

- ・Jamboardのスクリーンショットと振り返りをサイトに入力する。

Classroomに授業の流れを提示。学習者のペースで授業を進める。探求のサイクルを意識した、授業を展開。

【評価】

A：今までの学習を踏まえて、学習問題をつくる。

B：気づいたことや疑問に思ったことから、学習問題をつくる。

- 「探究のサイクル」を意識しながら、学習を進め、「自分で考える」ことができた。
- 他の児童のJamboardを見たり、社会科学習サイトからヒントを得たりして、自分の学びとつなげて考えていた。
- ▲ 「ちょいせつタイム」の目的からずれてしまっている児童もいた。「協働的な学び」としての話合い活動において、どこに目的を置くのか、系統的に育てる力等について今後も研究を深めていく必要がある。
- ▲ 「社会的事象の見方・考え方」を働かせるために、問いの重要性を改めて感じた。また、問いや、着目すること、どのように考えるかを整理する必要がある。

「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

社会科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～第6学年「近代国家を目指して」の実践を通して～

1 本事例のポイント

- ・児童それぞれのペースに合った学習を展開するために、クラウドを活用した各種情報共有の場を設定した。
- ・児童の多角的な思考が実現できるよう、チャットを活用し、より効率的な情報共有を展開することができた。
- ・自分の見たい時に過去の学びを振り返るために、社会科学習サイト(Google サイト)、スライドを活用したポートフォリオを作成した。

2 本事例の概要

第6学年「近代国家を目指して」の実践（本時は9時間中の第5時「日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を捉える場面」）

①課題の設定（めあて）

日清・日露戦争は、日本にとって、どのようなできごとだったのだろう？
サイト

B：2つの戦争の流れや結果から、キーワードを使い、日本と世界の国々との関係についてまとめることができる。

A：資料を用い、2つの戦争の流れや結果などをまとめて、世界の国々との関係の変化をまとめることができる。

S：B、Aをまとめ、友達と交流し、それをふまえて振り返りシートに入力している。

②情報の収集（7分）

- 1、教科書を読んで、キーワードにラインを引く、文章と資料をつなげる など
- 2、ジャムボードに入力し、まとめる。

③整理、分析（一人でもいい、グループでも良い）

（ジャムボードにあげたキーワードをもとに、整理分析し、社会的な見方でまとめることができるようにする）

☆情報の収集のポイント、社会的な見方・考え方がわからなくなったら・・・黒板に掲示、サイトのホーム一番下にあります！

④まとめ、表現 つな・ワードを使って！

ゴール：（スライドノート追加+スクショして提出+振り返りシートに入力）

本時の流れ

Classroomに授業の流れを提示。学習者のペースで授業をすすめる。探究のサイクルを意識し、授業を展開

【評価】

B：2つの戦争の流れや結果から、キーワードを使い、世界の国々との関係の変化をまとめる。

A：資料を用い、2つの戦争の流れや結果などをまとめて、世界の国々との関係の変化をまとめる。

S：B、Aをまとめ、友達と交流し、それを踏まえた振り返りシートに入力している。

○どの授業でもICTを活用する中で、ただ使用するのではなく、探究のサイクルに沿って活用することができた。

○探究のサイクルにより、児童が学習の見通しをもって学習できるようになった。クラウドを活用した情報共有により、教員も一人一人の学習状況を把握することができ、困っている児童に必要な声かけをすることができた。

▲「ちよいせつタイム」では、調べたことのみを伝え合う場となってしまったため、改善が必要である。また、教科書の内容だけでなく、多くの情報にあたることや、調べた内容から新たな疑問を発見し更なる調査をするなど学習を深めていきたい。

「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

ICT端末の利活用

1 本事例のポイント

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、ICT機器の活用は大前提である。児童の実態に即した授業の実現、より効率的な協働的な学びの実現に向け、下記の内容に取り組んだ。

2 本事例の概要

①Googleサイトの活用

- ・他学年のJamboardを見られる場の設定
- ・各時間の参考になるJamboardを掲載
- ・Jamboardでまとめた内容を個人のポートフォリオとして掲載
- ・参考になる自主学習の取組やJamboardのまとめ方の例を掲載
- ・学級活動の内容やお手本となる児童の様子を掲載
 - 上級生のまとめ方が、他の学年のお手本になっている
 - 前時までの内容や前の単元の内容を容易に見ることができる
 - 振り返り・学習感想を入力することでスタディログとして利用できる
 - 様々な情報をサイトという1つの場所にまとめることができ、児童も教員も情報にアクセスしやすくなった

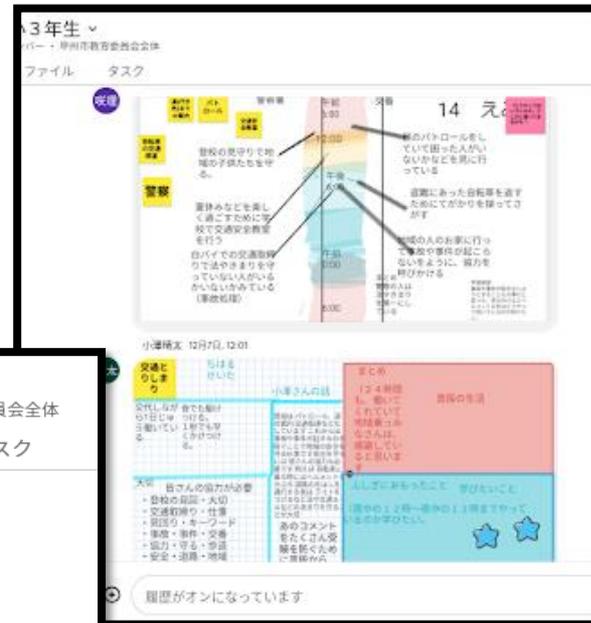


「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

ICT端末の利活用

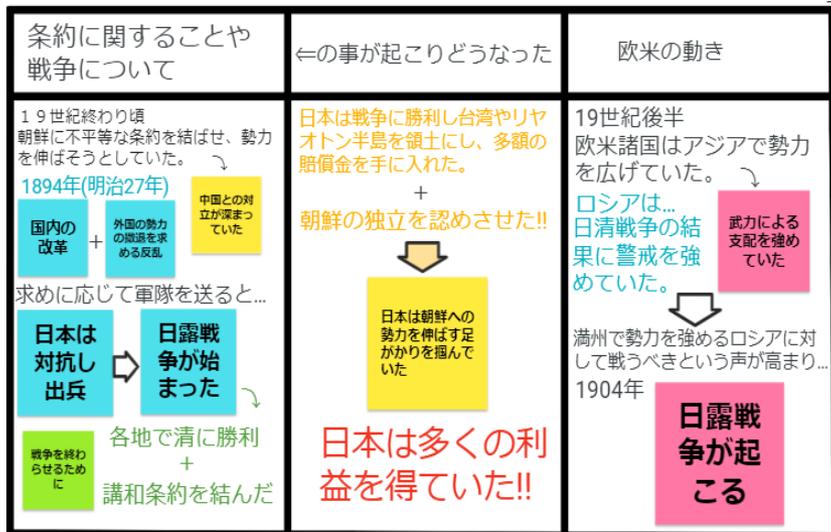
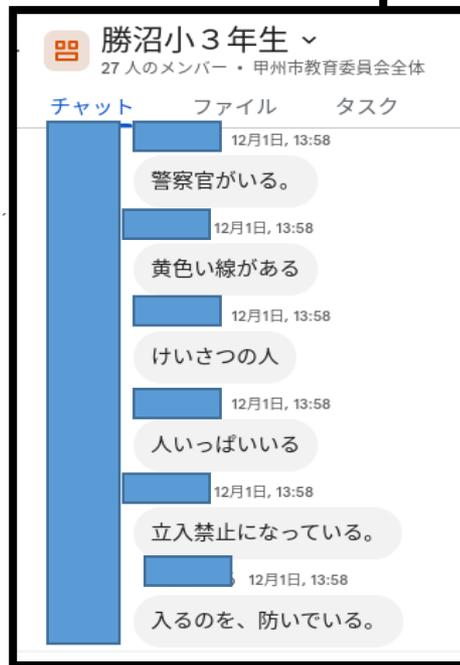
②Chatの活用

- ・導入段階での質問に対する回答をChatに入力
- ・終末段階でのまとめの共有・・・1時間でもまとめた内容をChatで送信
 - 短時間で多くの意見を知ることができる
 - お互いにまとめた内容をすぐに確認できる
- ▲Chatの使い方や、情報モラルに関わる指導が必要となる



③情報モラル教育・タイピングスキルの向上

- ・タイピングスキルアップ（毎週火曜日の朝活動）
- ・「GIGA ワークブックやまなし」を活用した情報モラル教育
 - タイピングスキルの向上に伴い、表現力も向上



「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

探究のサイクルおよび思考ツールの掲示物作成・掲示

1 本事例を取り上げる理由

学校全体で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の下支えとなる、情報活用能力の育成に向けた取組の一つとして、「系統立てた情報活用能力の育成を目指した学級掲示」を行っている。

2 本事例の概要

- ・「探究のサイクル」「思考ツール」「教科の見方・考え方」をいつでも確認できるように、黒板や壁面に掲示
- ・「探究のサイクル」をGoogleサイトにも掲載し、いつでもICT端末から確認できるように設定



○Classroomに課題や流れを提示し、授業を展開することで複線型の学習を行うことができた。

○個別に取り組んだり、グループで取り組んだり、学習に合わせた「学び方」を児童それぞれが選択することができた。

▲児童が“社会的事象の見方・考え方”を働かせながら、資質・能力の育成を図るという部分に近付けていない。問いの重要性を教師が意識し、問題解決的な学習を積み重ねる中で、資質・能力の育成につながるよう今後も研究を続けていきたい。